

# 生神女福音祭 3月25日／4月7日

「主よ、爾に籲ぶ」に三歌經の本日の自調の讚<sup>ステイヒラ</sup>頌、二次、致命者讚詞なし、及び三歌經の他の讚頌三、祭日の三、及び天使首の三。

祭日の讚<sup>ステイヒラ</sup>頌、第四調。

第六月に「アルハンゲル」は潔<sup>いさぎよ</sup>き童貞女に遣<sup>どうていじよ</sup>されて、先祝慶を彼に述べて、彼より贖<sup>しよくざいしゆ</sup>罪主の出でんことを福音せり。故に彼は問安を受けて、爾<sup>なんじえいきゆう</sup>永久の神、我等の靈<sup>かみ</sup>の救<sup>すくい</sup>の爲に言ひ難く人と爲らんことを嘉せし者を孕めり。

生神女は曾て識らざりし言<sup>ことば</sup>を聞けり、蓋<sup>けだし</sup>「アルハンゲル」は彼に福音の宣示を述べたり、是に於て彼は正しく問安を受けて、爾<sup>なんじえいきゆう</sup>永久の神を孕めり。故に我等も喜<sup>よろこ</sup>びて爾に呼ぶ、變易せずして彼より身を取りし神よ、世界に平安、我等の靈<sup>かみ</sup>に大なる憐<sup>あわれみ</sup>を賜へ。

視よ、今喚起は我等に顯<sup>あらわ</sup>れたり、言<sup>ことば</sup>に超えて神は人人に體合し、「アルハンゲル」の聲に藉りて迷<sup>まよ</sup>は遠ざかる。蓋<sup>けだし</sup>童貞女は歡喜を受け、地の者は天と爲り、世界は始の詛<sup>のろい</sup>より釋かれたり。造物は喜<sup>よろこ</sup>ぶべし、聲を以て歌ふべし、我が造成者及び贖<sup>しよくざいしや</sup>罪者たる主よ、光榮は爾<sup>なんじ</sup>に歸す。

天使首の讚<sup>アルハンゲル</sup>頌、第一調。

大なるガウリイル、神に肖たる智慧は、救<sup>すくい</sup>を施<sup>ほどこ</sup>す至りて光明なる三日の光<sup>さんじつ</sup>を觀、上天の諸品と偕に神聖莊嚴なる歌を奉<sup>たてまつ</sup>りて、我等の靈<sup>かみ</sup>に平安及び大なる憐<sup>あわれみ</sup>を賜はんことを祈る。

ガウリイルよ、先に天使等に知られず、世の無き前より隱さるる大なる秘密は獨<sup>ひとり</sup>爾に托せられ、爾<sup>なんじ</sup>はナザレトに至りて、之を獨<sup>ひとり</sup>潔<sup>いさぎよ</sup>き者に報じたり。彼と偕に我等の靈<sup>かみ</sup>に平安及び大なる憐<sup>あわれみ</sup>を賜はんことを祈り給へ。

第十一讚頌の附唱、其使者を以て風と爲し、其役者を以て火燄と爲す。

常に光に滿てられ、全能者の望<sup>のぞみ</sup>を成し、命<sup>いのち</sup>を行<sup>な</sup>ふ諸天使の首<sup>かしら</sup>、至榮なるガウリイルよ、愛を以て爾<sup>なんじ</sup>を尊<sup>たす</sup>む者を助けて、常に我等の靈<sup>かみ</sup>に平安及び大なる憐<sup>あわれみ</sup>を賜はんことを求め給へ。

光榮、今も、第六調。

「アルハンゲル」ガウリイルは／童貞女に受孕<sup>みごもり</sup>を福音せん爲に／天より遣<sup>つかわ</sup>されて、／

ナザレトに至り、奇蹟に驚<sup>おどろ</sup>きて自<sup>みづか</sup>ら思へり、嗚呼如何にして至高<sup>いとたかき</sup>に於て測り難き者は、

童貞女より生るる、天を寶座と爲し、地を足凳と爲す者は童貞女の胎に入る、六翼の者

と多目の者とが見る能はざる主は／一言を以て／彼より身を取ることを嘉する。此れ神

の眞實の言<sup>ことば</sup>なり。何ぞ我立ちて／童貞女に言はざる、恩<sup>おんちよう</sup>籠<sup>こうむ</sup>を蒙<sup>もの</sup>れる者慶<sup>よろこ</sup>べよ、主は



けいてい けだし せい もの せい もの みなひとつ もの い こ ゆゑ かれら けいてい  
 兄弟よ、11蓋★聖にする者と聖にせらるる者とは、皆一の者より出づ、是の故に彼等を兄弟  
 と稱ふるを愧ぢずして 12曰く、我爾の名を我が兄弟に傳へ、爾を會中に詠はん。13又曰  
 く、我彼を頼まん。又曰く、視よ、我及び神が我に與へし諸子は此に在りと。14夫れ諸子は  
 肉と血とに屬するが故に、彼も亦親しく之を受けたり、死を以て、死の權を乗る者、即 悪魔  
 を空しくし、15死を畏るるに因りて生涯奴役に服せし者を釋たん爲なり。16蓋彼は天使等  
 より受くるに非ず、即 アウラムの裔より受く。17故に凡の事に於て兄弟に肖るべかり  
 き、神の前に矜恤、忠信なる司祭長と爲りて、民の罪を贖はん爲なり。18蓋彼親ら試  
 みられて、難を受けしが故に、試みらるる者にも能く助くるを爲すなり。

「アリルイヤ」、第一調、彼は芟りたる草場に降る雨の如く、土を潤す雨滴の如く降らん。  
 句、彼の名は崇め讃められて世世に至らん、日の在る間は彼の名傳はらん。

【福音經の誦讀】ルカ三端。

か ひ つま たら かく を ごかげつ い しゅ か われ  
 彼の日ザハリヤの妻エリサウェタ妊みて、隠れ居りしこと五月にして曰へり、25主は斯く我  
 に爲せり、彼に此の日に於て我を眷みて、我が耻を人人の間に洒がしめたり。  
 だいろくげつ おい てんし これ い おんちよう かつかひ ほう まち な  
 26第六月に於て、天使ガウリイルは神より使を奉じて、ガリレヤの邑ナザレトと名づくる  
 所に、27ダウイドの家の人、名はイオシフと云ふ者に聘せられたる處女に臨めり、處女の名  
 はマリヤなり。28天使入りて之に謂へり、恩寵を蒙れる者、慶べよ、主は爾と偕にす、爾  
 は女の中に祝福せられたり。29女彼を見て、其言を訝り、此の問安は何事ならんと思  
 へり。30天使之に謂へり、マリヤ懼るる勿れ、蓋爾は神の前に恩寵を獲たり。31視よ、爾  
 妊みて子を生まん、其名をイイススと名づけん。32彼は大人なる者となりて、至上者の子と稱  
 へられん、主神は彼に其租ダウイドの位を與へん、33彼は世世イアコフの家に王となりて、  
 其國終なからん。34マリヤ天使に謂へり、我人に適かざるに、如何にして此の事あらん。  
 てんし これ い せいしんなんじ のぞ しじようしゃ ちからなんじ おほ う ところ  
 35天使彼に答へて曰へり、聖神爾に臨み、至上者の能爾を蔭はん、故に生む所の聖なる  
 者も神の子と稱へられん。36視よ、爾の親戚エリサウェタ年老いて子を妊めり、素妊まざ  
 る者と稱せられしに、今已に六月なり。37蓋神に在りては凡そ其言ふ所能はざることな  
 し。38マリヤ曰へり、我は主の婢なり、爾の言の如く我に成るべし。天使彼を離れたり。

【常に福に代えて】

常に福に代えて

地よ、大なる歡喜を 福 音 せ よ 諸天よ、神の光榮を  
 讚めあげよ 聖にせられざる 者 の 手 は  
 あえて神の生ける約櫃に 触れるべから ず ただ信者の口は

黙もたさずして 天使の生神女に告げしことばを うた い

喜びて呼ぶべし 恩寵を蒙れる者 慶こべよ

主は 爾と ともにす

【領聖詞】主はシオンをしゆ擇び、此を以て其住所とするを望えらめり。これ もつ そのすまい のぞ(ps131:13)

領聖詞

主は シオンを 選 び これを以て

そのすまいとするを のぞ めり

アリルイヤ アリルイヤ ア リ ル イ ヤ